

今月の最新ニュース

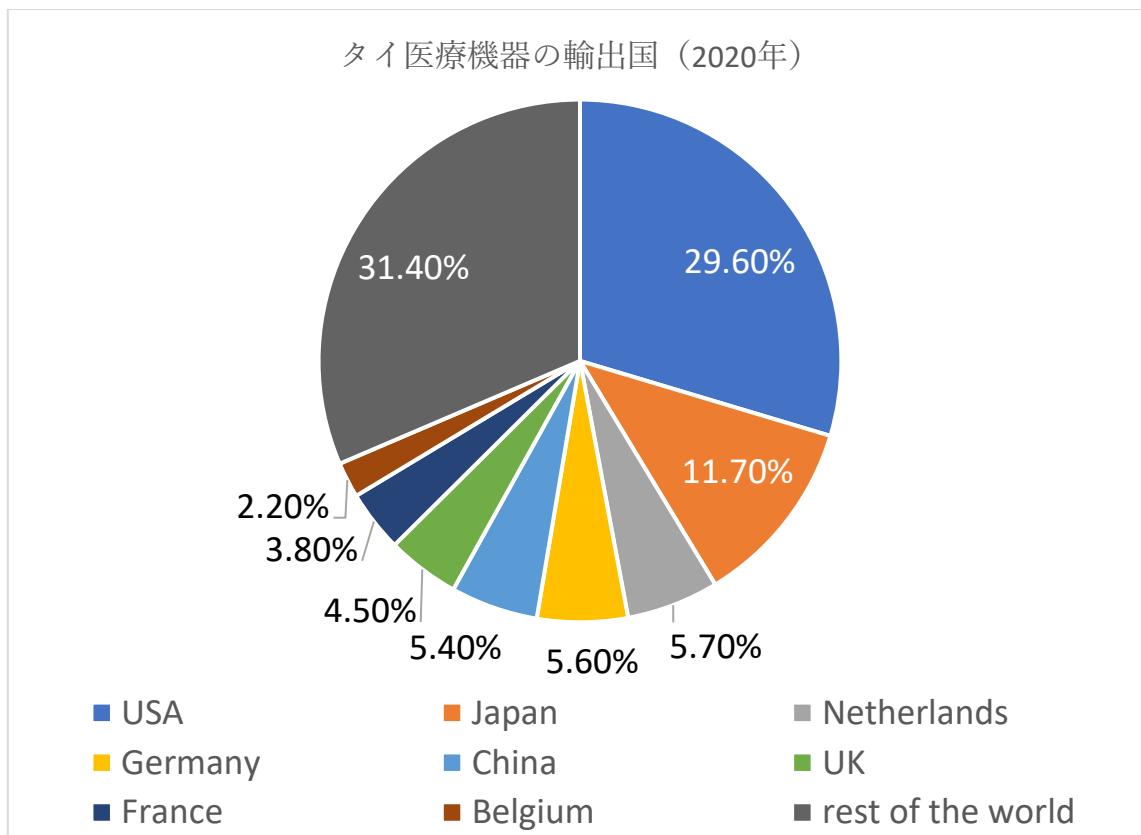
「タイにおける医療産業について(2)」

前回はタイの医療産業の現状をレポートしました。タイは高齢化、医療ツーリズムにより、国内医療産業の需要が高まるとともに、関連する医療機器の需要も大きく高まっています。今回は医療機器の現地生産、輸出入などタイ国内の医療機器市場についてレポートします。

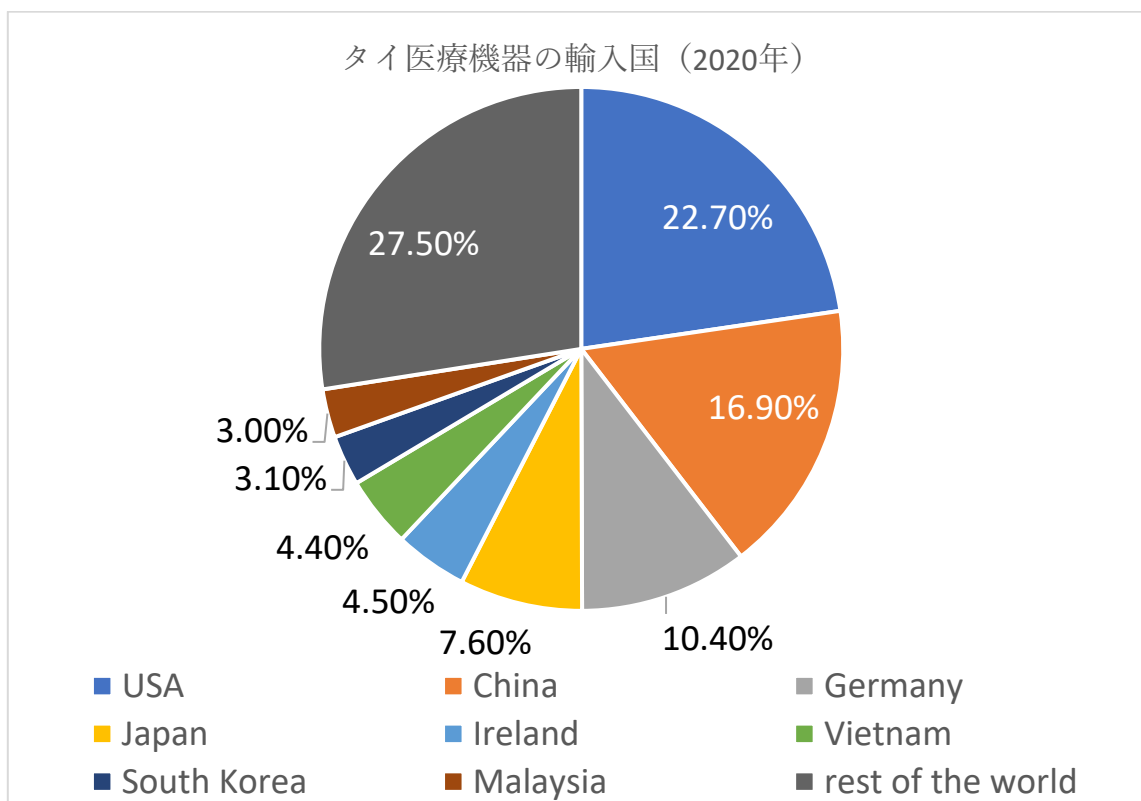
タイ国内での医療機器市場は2022年で推定3000億円、2018年から2022年にかけて年平均成長率は7.5%と推定されています。医療機器の国内生産額は約395億Baht（1500億円）となっており、主に医療用ゴム手袋、注射器、カテーテル、オートクレーブなどの消耗品を生産しています。特に医療用ゴム手袋は、タイ国内で天然ゴムを年間450万トンも産出しているため、マレーシアに次ぐ世界有数の生産国となっています。コロナ禍により、医療用ゴム手袋の需要が急速に高まったことで、世界三位のゴム手袋メーカー、シートラン・グローブス・タイランドは収益がコロナ前の2250%増の144億Baht（約550億）に急増した例もあります。また、タイ国内における医療機器産業の関連企業は3000社以上もあり、その多くはバンコク近郊にある中小企業で、消耗品の生産が中心となっています。

医療機器の輸出に関しては、医療用ゴム手袋などの消耗品を主に輸出しており、2017年以降の輸出額は1000億Baht（約3900億円）を超えています。輸出国の上位は中国、アメリカ、ドイツ、日本となっています。これらの輸出企業の多くは外国籍企業となっており、タイをOEM生産拠点として、自国向けに製品を輸出しています。輸入に関しては、電気機械装置、眼科用装置、光学機器などの高度な技術を要する医療機器を主に輸入しており、2019年以降は700億Baht（約2700億円）を超えています。輸入国の上位は、米国、中国、ドイツ、日本となり、研究開発に巨額の費用がかかることから、高度な医療機器については輸入に大きく依存しているのが現状です。タイ人医師の多くが欧米で医療を学ぶため、欧米の使い慣れた機器の導入が進んでいます。タイは消耗品の製造拠点であるにもかかわらず、高品質のカテーテルや針製品等も、輸入に依存しています。

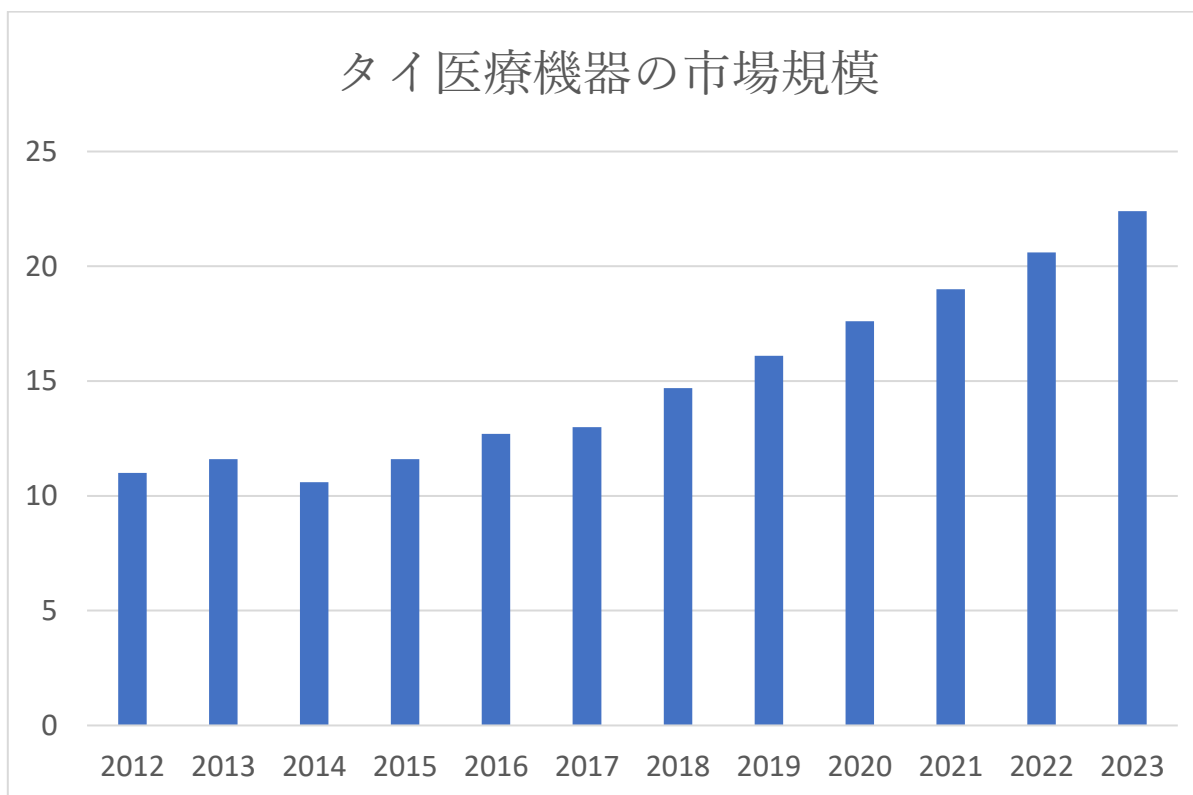
新型コロナの影響によるグローバルサプライチェーンの混乱により、医療機器産業全体の輸出入額は減少しましたが、前述のゴム手袋企業のように医療用消耗品の需要は大きく高まりました。また、新型コロナの感染をおそれ大型病院への来院を敬遠する患者が増加したため、小規模クリニックの開設や、衛生クリニックなどの開業が進んでいます。医療過疎地における需要の掘り起こしを進めるために、遠隔医療や訪問医療なども行われており、これらの医療施設の拡大は、タイの医療機器市場の活性化に大きく貢献すると予測されています。



出展：MeDIU, Krungsri Research



出展：MeDIU, Krungsri Research



*2020年以降は予想値。実際はコロナの影響で2021年からは下降している。

出展：MeDIU, Krungsri Research

大阪産業局 タイビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク(タイ: NC BIZ CENTER (THAILAND) CO., LTD.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

タイ事務所：142 Two Pacific Place Unit 1101 11F, Sukhumvit Road,
Khlongtoei, Khlongtoei, Bangkok 10110 THAILAND